

まちの話題

ISA City Topics



第20回「氷の祭典」 アイスカービング in 伊佐

寒い伊佐ならではのイベント「氷の祭典」が1月24・25日に開催されました。

毎年大好評の約50mの氷の滑り台には長蛇の列ができ、子どもも大人もこの日だけの滑走を楽しみました。

氷の彫刻は全12体。市内外の団体が夜遅くまで製作した氷像は、完成後に美しくライトアップされました。

高校生による沖縄組踊や、ソーラン節、和太鼓演奏、ダンス、餅まき抽選会などの催しもあり、多くの来場者は思い思いに「氷の祭典」を楽しんでいるようでした。



身近にある人権問題を考える



2月は、6日に「人権のまちづくりをめざす伊佐地区研究会」、8日に「人権を考える市民のつどい」と人権について考える機会がありました。

6日の研究会（伊佐地区人権・同和教育研究協議会主催）では、人権・同和教育を担当する市内の教員が劇団「いちにちかぎり」を結成。

問題提起として、自らが聞き、感じ、気づいたことなど、実体験を基にした芝居や作文の朗読、詩の朗読を披露し、身近なところに人権を考えるきっかけはある、と参加者に訴えました。

地域再生大賞 「伊佐みりよく研究所」



地域の再生・活性化に取り組んでいる全国各地の住民活動を支援するため、南日本新聞社など地方新聞45紙と共同通信社が設けた「第5回地域再生大賞」の優秀賞を伊佐みりよく研究所(新原洗太郎代表)が受賞しました。地域おこしのための活動実績(手羽キング・イーサキングなど)や新規性のあるアイデアや手法などが評価されました。

司書さんの研修会



2月5日、図書館の専門職である「司書」が集い、伊佐市司書補部会研修会が行われました。今年度最後の研修会ということもあり、高校の司書や市立図書館の職員も参加し、初の合同研修会が実現しました。

研修会では、本の内容を紹介する「手書きPOP」の作成について学びました。文字の書き方やレイアウト、読みたくなるようなキャッチコピーなど、それぞれ個性ある作品に仕上がりました。完成品を前に会場には笑いや称賛の声が溢れ和やかな雰囲気でした。

今後もより一層の交流を深め、更なる図書館サービスの向上に努めようと意思統一を図りました。

鑑評会 「大口酒造」 総裁賞代表受賞



平成26酒造年度鹿児島県本格焼酎鑑評会において、大口酒造株式会社の「黒伊佐錦」が甘藷部門で総裁賞代表受賞の栄誉に輝きました。

甘藷(芋)、米、麦、黒糖焼酎の合わせて246点が出品され162点が入賞、甘藷部門1位の大口酒造とともに甲斐商店と大山酒造も同時入賞する快挙を成し遂げました。

ふるさと先生「車椅子バスケット」



2月3日、牛尾小学校で車椅子バスケットボールの体験教室がありました。

講師は、昨年8月に市内で行われた車椅子バスケット日本代表の合宿受け入れの際、実行委員を務めた鶴田健二さん(小木原60歳)で、事故で車椅子生活になったことや車椅子バスケットに出会い生きがいを持てたことなど、自身について語りました。

児童たちは、競技用の車椅子の操作に悪戦苦闘しながらも徐々にコツを掴み、普段なかなか触れることのできない障がい者スポーツを体験し、その難しさ楽しさを学びました。

最後に鶴田さんは「健常者も障がいのある人も皆同じ仲間」と互いに共生する社会への理解を求めました。

新大口塾「ユズリハ」



2月10日、大口高校OBを含む14人の講師が、人生で積み上げてきた経験や生き方について講座を開きました。

受講者の1・2年生は、テーマ別の教室に分かれ、社会人の先輩である講師の話に興味深く聞きっていました。

「ユズリハ」とは

植物であり、春に若葉がでた後、前の葉がそれに譲るように落葉するそうです。このことを親が子を育て家が代々続いていくよう見立て、縁起物とされています。

同窓生や地域の先輩の講話を通じ、在校生そして大口高校の発展を祈念して大口塾「ユズリハ」と称されています。

農林技術科「課題研究発表会」



伊佐農林高校農林技術科は1月21日、今年で2回目となる学外での課題研究発表会を菱刈環境改善センターで開催しました。

園芸や林業、中小・大家畜、食品加工など、専攻する班ごとに取り組んできた研究について発表しました。

発表内容では自己の体験に基づく建設的な意見が多く、来場していた農業関係者らと研究結果を共有し、新たな発想のもと地域の農業振興をめざしたいと報告しました。

元気いっぱい豆まき



2月3日の節分、市役所大口庁舎にみどり保育園、菱刈庁舎に本城幼稚園（写真）の園児が豆まきにやってきました。

手作りのお面を被りかわいい鬼に扮した園児たちは、炒った大豆を力いっぱいまきながら元気よく大きな声で「鬼は外、福は内」と厄を払い福を呼び込んでくれました。

帰り際には、庁舎で働く人たちにと食べるための豆も残してくれたかわいい鬼たちでした。

おいしいお茶の入れ方教室



市内の小学校数か所で「お茶の入れ方教室」がありました。（写真：菱刈小学校）

児童に地元産茶に親しんでもらい、食育や茶の地産地消につなげる取り組みとして始良・伊佐地域振興局が行っています。

お茶インストラクターの指導で茶の種類や加工方法を学んだ後、手順に沿って適温に冷ました湯を急須に注いで待つこと1分。湯飲みに注いだお茶の香りや味を楽しんでいました。

児童らは、お茶の甘みや渋みをしっかり味わえたようで「家のお茶と全然違った、おいしかったから家でも習った通りに入れてみたい」と笑顔を見せました。

参加者には家庭で復習できるように、急須がひとつずつ贈られました。

陶芸に挑戦！



大口小学校5年生が、地元の陶芸愛好家7人の指導のもと陶芸に挑戦しました。

制作したのは皿やコップなど、使って楽しい作品。慣れない粘土の扱いに苦戦しながらも、好きな形にしたり、名前や絵を彫ってお気に入りの作品に仕上げました。

「下絵を描いて作り方を想像していたけど、実際作るのは全然違った」と言いつつも、子ども達から出る感想は「楽しかった」という言葉ばかりでした。

作品は乾燥させた後、窯で焼き、春休み前には児童たちの手元に届きます。

第62回県下一周駅伝



2月、恒例の県下一周市郡対抗駅伝競争大会が開催され、大会3日目16日に伊佐市を通過しました。

5日間で延べ53区間およそ590kmの道のりを、郷土の熱い思いをタスキにのせて駆け抜けました。

沿道ではたくさんの観客が声援を送り、コース近くの小中学校が授業を休んで趣向を凝らした応援をする姿はこの時期の風物詩です。

選手は郷土の熱い声援を受けて力走しました。

冬のプールでニジマス釣り



冬場使用しない学校のプールを利用して、2月11日、曾木小学校でニジマス釣りがありました。

昨年10月に約800匹の稚魚を放流し、餌やりをしてこれまで育ててきました。

曾木小学校の児童や保護者をはじめ、地域の方々など集まったおよそ80人の参加者は、プールサイドをずらりと囲み大きく育ったマスを次々に釣っていました。

釣りの後には、マスの塩焼きが振る舞われ、骨までおいしく頂きました。

地域で祝福「半成人式」



平出水小学校近くの集会施設「いなほ館」で2月6日、平出水小でたった1人の小学4年生 橋本茉弥さんの半成人式がありました。

成人の半分となる10歳の節目に家族への感謝の気持ちや将来の夢を育んでもらおうという行事です。

式では保育士になる夢を語り、愛情いっぱい育ててくれている両親には、遠足と一緒に弁当を食べたことや遊園地に行った思い出を話し、お父さんお母さんの力になれるよう家族の一員として頑張りたいと、感謝の思いを述べました。

式終了後は先輩達と同様に、願いを込めていなほ館の壁に夢を書き記しました。